

時間的制約の中での初級日本語取り組みの報告

国際大学
竹内明弘

要旨

標準より少ない時間で初級日本語教科書『げんき』を取り扱う際の、教材の精選と圧縮、予復習と宿題、音声ファイルのオンライン学習システム活用などの様々な工夫の実践を報告し、問題点と改善点を模索する。

キーワード：初級日本語 教材の精選 取り組みの工夫 オンライン

0. はじめに

ジャパントイムスの日本語初級者用教科書『げんき』は、教師用指導書によると、会話・文法編が5～6時間で、読み書き編は3時間を各課に当てるように作られており、全23課では184～207時間かかる計算になる。一方、筆者が所属している大学で担当しているエレメンタリー日本語コースは年間の総時間数がおよそ170時間¹で、『げんき』2巻全てを教えるには時間数が足りない。本稿では、この時間的制約の中での工夫を1. 言語技能の優先的選択、2. 進度の圧縮、3. 自習の活用、の3点にまとめて、学生からの評価も勘案に入れ問題点を検討し、今後の改善点を模索する。

1. エレメンタリー日本語コースの概要

1 学年は秋学期、冬学期、春学期の3学期で構成され、各学期の実質の授業は9週間ずつである。コース名はエレメンタリー日本語1, 2, 3²と各学期に対応する。一週間に学生は70分クラスを4コマ、90分クラスを1コマ、さらに非漢字系学生は50分一コマの漢字補講クラスに出席しなければならない。

教科書の進度は、秋学期(9週)には3～10課、冬に11～17課、春に18～23課の進度をとるようにしている。

漢字補講クラスは木曜夜に50分を取り、新出漢字の導入と既習漢字の復習と練習を行っている。

2. コース実施の工夫

2. 1 言語技能の優先的選択

¹ 週6コマ：{70分×4回+90分(1コマ日本人との会話クラス)+60分(漢字クラス秋冬の2学期のみ)}×9(週)×2(学期)+{70分×4(回)+90分(1コマ日本人との会話クラス)}×9(週)=184.5時間。これから祝日と中間テスト実施日を引くと、180時間に満たなくなる。

² 合格者には卒業認定に組み込まれる単位として各1単位が与えられる。

2. 1. 1. 聞く・話す能力を優先した活動内容

エレメンタリーコースは4技能の内、「話す」「聞く」の2技能を優先的に習得させようとしているので、会話・文法編の文法項目の導入はほぼ全部を網羅し、テキストの練習の中で基礎的なものはクラスと宿題で少しづつ毎日活用している。コース一週間は基本的に70分授業が4回と90分授業が1回で構成され、秋と冬学期のみ課外に50分の漢字クラス³を授業を一回設けている（以降は～分授業をコマと呼称）。3コマで新出項目の導入と基本的な練習を行い、4コマ目は総合練習、90分の5コマ目は日本人会話ボランティアを招いて会話練習を行っている。

応用・総合練習に関してはテキストの一部と自作のものを4コマ目の総合練習や5コマ目⁴で行っている。4コマ目は既習項目を総合した会話や読解活動をするため新出項目の導入はない。読解活動とエッセーの宿題提出も要求している。

学生による評価⁵によると、「実際に日本語で会話をする機会がない」という声が少ない。これは週一回の会話クラスを設けてはいるものの、国際大学の構造的な問題⁶とも言える。日本語使用の機会を広げるために、日本人と会話練習をするように勧めている。「聞く・話す」を最優先しているため、読み書き能力に割ける時間は少ない。それで、読解教材には、テキストの読み書き編を使わず自前のものを使用して、4コマ目に読む活動を行っている。その関係で漢字リストは導入順を変えて授業でよく使う漢字を追加するなど編集して使っている⁷。

学生からの評価は、教科書の読み書き編の漢字リストに沿った提示順にしてほしいという声があった。

3. 進度の圧縮

3. 1. 2課までを既習としてコースを開始

新学期開始直前に3日間の集中日本語コースを設けている。『げんき』とは異なるが、シラバスは『げんき』の1, 2課をほぼ網羅する当大学独自の教科書を使って

³ 非漢字系の学習者のみが受講し、漢字系は免除される。

⁴ 5コマ目はボランティアとの会話をするための90分の枠を用意。クラスを2組に分け、日本人との会話と通常授業を30分間別の部屋で並行して実施し、30分で組を交代した。秋学期は後半の5週、冬学期は9週このやり方でいった。

⁵ 2007年秋学期から2009年冬学期までの5学期間にわたって収集した

⁶ 全学生中留学生が約8割で、ほぼ全員が寮に住み、授業と学内の掲示連絡は全て英語が公用語という環境に、日本語学習者は生活している。

⁷ 非漢字系の学習者のみを対象に課外補習授業で漢字クラスを50分設け、毎週10字前後の新出漢字の導入と練習をし、復習クイズを実施している。秋学期は3～10課までの読み書き編に沿った漢字をそのまま導入、冬学期は11～18課までのものを取捨選択、授業で頻繁に使う「漢・字法・宿・題・質・問・答」を追加して週当たり10～14字導入している。春は漢字クラスは実施しないが、漢字は冬学期と同様に取捨選択し、導入は5コマ内で分散して行っている。クイズ、定期考査では、秋と冬学期の中間試験まで認識と産出の両方を、それ以降は認識のみ要求。

いる。また動詞15語を「ます形」で、ひらがな全部とかたかなの一部も導入しておき、『げんき』1・2課は既習として、また3課は予習済みを前提とした出題範囲のクオリファイングテストを行い、このテストに合格しないと秋学期のコースが履修できないようにしている。学生からの評価には「新幹線」のように進度が速いという声がややあるが、大方の学生はこれでよいとする回答であった。

4. 自習の活用

4. 1. 予習と復習

新出の単語と未習の文法項目の説明を読んで自習形式で行う予習と、学習した項目をその日に復習をするための宿題を学生に課して、導入や説明などの講義形式の伝達を最小限に抑え、インターアクティブな活動に最大限の時間が取れるようにした。学生からの評価には、満足・自習に追い込まれるのはよい・宿題をしていればクラスの準備ができるのでよい、という声がある一方、教科書の説明だけでは不十分・クラスでの教師による説明があった方がよい・専門のコースの勉強の合間を縫って日本語を自習するには時間不足という声もあった。

4. 2. オンラインの音声ファイルを使った自習と宿題

自習と宿題には『げんき』CDの音声ファイルのオンライン配信システムを使用している。以下にこのシステムの説明と、使用状況を説明する。

4. 2. 1. システム設立の経緯と概要

日本語教科書に準拠した音声デジタル化されて久しくなるが、デジタル化された音声ファイルの使用には著作権と利便性と価格とのかねあいの問題が常につきまとう。げんきに準拠した練習問題の音声ファイルが収録されているCDは、個々の学生が買うには経済的に負担がかかるので、あまり現実的ではない。便利だからといって、無断でコピーして配布したり、オンラインサーバーから配信して学生に使用させることは著作権法に抵触する。無論著作権者から許諾を得られれば問題はないのだが、一般的に出版社はデジタルコピーに関してはなかなか許諾しようとしないう傾向があり、これがデジタル音声ファイルを使って語学教育環境を構築しようとする際の問題となっている。

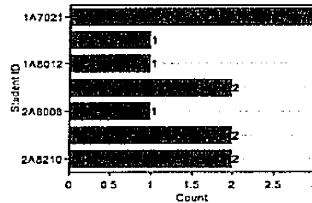
幸い、本学のコンピューター管理の担当部門であるMLIC（松下図書・情報センター）が著作権者のジャパンタイムズ社にCDの著作権に関して音声ファイルの使用の許可申請をして、許諾を得ることができた。これを受けて、同センターはCDのファイルを音声・映像配信サーバーに入れ、コンピューターの端末で学習者が自学できるシステムを構築し、2007年10月から利用できるようになった。但し、この許諾にはエレメンタリー日本語コースに登録している学習者に限るとの条件が付帯している。これを順守するため、承認用のサーバーで、コース登録してある学生を認識して、アクセスを許可するようになっている。大学の構内ならどのアクセ

(図 2)

Elementary Japanese "Genki" Soundfile Resource

nisatsu

ID / Name	Date / Time	Location
1A7021 Karagulov, Mira	2008/10/05 Wed 21:22:45	学寮
	2008/10/12 Sun 16:21:21	PC教室(有線・R124)
	2008/11/26 Wed 22:11:15	学寮
1A6054 Serino, Moise	2008/10/20 Mon 20:39:46	学寮
1A6012 Chimeddorj, Tsengjargal	2008/10/21 Tue 12:39:35	学寮
1A6063 Harris, Sotomo	2008/10/08 Wed 15:24:11	学寮
	2008/10/16 Thu 15:28:29	学寮
2A8095 Good, Wade	2008/10/19 Sun 20:49:18	学寮
2A8045 Ari Du, Sano	2008/10/08 Wed 22:40:42	学寮
	2008/10/24 Fri 13:14:58	学寮
2A8210 Lopez, Do	2008/10/12 Sun 13:14:54	学寮
	2008/10/12 Sun 22:06:44	学寮



4. 2. 3. システムの使用状況

現在このシステムを使って宿題に課しているのは『げんき』ワークブックの各課の最後にある「聞く練習」のみで、それ以外の音声ファイルに関しては基本的にはクラスで導入と練習した項目の復習に使うように勧めるにとどまっている。このシステムの使用について、管理者画面で確認できる学習者のアクセス状況と学生によるコース評価のコメントを見比べながら、担当教師である筆者の観察も交えて以下に問題点を探っていく。

大多数の学生は聞き取り練習に課した宿題の提出を提出していた。聞き取り練習の解答は本人の独習が前提だが、他人の答案を写した可能性も否定はできず、疑わしい例も時折見受けられた。この問題は管理者画面から学生のアクセス状況と宿題の提出状況を照合することによって学生が練習で本当に音声ファイルを活用しているのかどうかを検証することは可能だが、作業が極めて煩雑になるので不問に付した。しかし、今後の課題として、提出された宿題と聞き取り練習の照合がしやすくなるようなインターフェースの開発は一考に値する。また、宿題に限らず学習者が音声ファイルを実際にどのように活用しているかの調査も必要であろう。

学生の評価によると、2008年の秋学期は「役に立った」と回答した学生が多かったが、「バグがあり、web2.0 環境では無理がある」、「使わなかった」、「不便だ」という声もあった。2009年の冬学期は「役に立った」との回答が多かった。「ブログの方が役に立つ」「1, 2 回しか見なかった」との回答も一件ずつあったが、前者がどのようなブログの事を指しているのかは不明で、後者については、インターネット上にジャパントイムス社が著作権を持つ「初級日本語げんきオンライン」⁸に言及

⁸ <http://genki.japantimes.co.jp/index.html> (2009年3月23日現在)

スポイントからもアクセスが可能であるが、構外からのアクセスはできないようになっている。

4. 2. 2. システムのインターフェイス

コース登録をした学習者はユーザーIDとパスワードを入力してホームページにアクセスをすると、音声ファイル名のリストが表示される。聞きたい音声ファイル名をダブルクリックすると回数、位置など自由に再生できる。HPには管理者のみがアクセスできる管理者画面があり、以下の2種類のアクセス解析ができる。

(1) 個々の学生がアクセスした音声ファイル名と日時/時間とアクセスポイントを文字データと円グラフで示す。(図1)

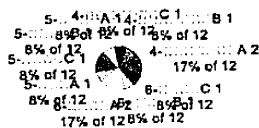
(図1)

Elementary Japanese "Genki" Soundfile Resource

IA7855 Mamonov, Rauchanbek, Japandialog

Interface	Date / Time	Location
5-練習I A	2008/10/20 Mon 07:59:35	学寮
5-聞く練習A	2008/10/20 Mon 08:00:41	学寮
5-聞く練習B	2008/10/20 Mon 08:01:50	学寮
5-聞く練習C	2008/10/20 Mon 08:03:39	学寮
6-聞く練習A	2008/10/28 Tue 08:53:57	PC教室(有線・R120)
	2008/10/28 Tue 08:54:04	PC教室(有線・R120)
4-きくれんしゅうA	2008/10/13 Mon 08:17:28	学寮
	2008/10/13 Mon 08:17:36	学寮
6-聞く練習B	2008/10/28 Tue 08:55:50	PC教室(有線・R120)
4-きくれんしゅうB	2008/10/13 Mon 08:20:06	学寮
6-聞く練習C	2008/10/28 Tue 08:57:16	PC教室(有線・R120)
4-きくれんしゅうC	2008/10/13 Mon 08:24:42	学寮

4-きくれんしゅうA 4-きくれんしゅうB
 4-きくれんしゅうC 5-聞く練習A
 5-聞く練習B 5-聞く練習C
 5-練習I A 6-聞く練習A
 6-聞く練習B 6-聞く練習C



(2) 個々の音声ファイルにアクセスした学生の名前と日時/時間とアクセスポイントを文字データとヒストグラムで表示する。(図2)

していた可能性がある。

管理者画面で学生のアクセス状況を見て分かったことを以下に記す。

- (1) 2008年秋学期にはオンラインシステムをほとんど使用していない者もいれば、様々な練習に数十回もアクセスしている者もいるというように、学生によって使用頻度と状況がかなりまちまちだった。
- (2) 2009年の冬学期は半数程度の学生が宿題の聞き取り練習以外にはあまりアクセスしていないという傾向があった。
- (3) 全般的傾向として、学習者は宿題に課せられたかクイズに出題される可能性が高く、必要性が高いと判断したファイルにはアクセスをして、必要性が低いものにはアクセスをしておらず、時間的制約の中で経済的にアクセスをしていたようである。

また、学習者を観察していると、秋学期の既習事項の「て形」と short-form の活用能力の低い学生は、冬学期の半ばを過ぎても習得が進んでおらず、活用規則も忘れていくケースが目立ち、コンペテンシーが低い様子が見て取れた。この2つの活用規則の習得は極めて重要なので、活用規則を見直して、活用規則を習得させる音声ファイルの活用を含む総合的な学習ストラテジーを活性化させるようなアプローチが必要だろう。

初級コースでは、予め動詞活用や構文のなどの基礎練習を十分に積んでおかないと、コミュニケーションな応用・総合練習が活動として成立しないのだが、基礎練習も応用練習も全て教室内活動で行うことは限られた時間ではできない。このような時間的制約がある中、このオンラインシステムは、理論的には授業に盛り込む基礎的な練習を授業外にシフトして、学習者の自習をしやすくしたと言える。しかし、これは前段落で示した観察からもわかるように、応用練習はおろか、基礎的な能力の習熟もできていない学習者にとっては無理がある。また、専門科目の勉強にも時間を割かなければならない学生に向けては進度と宿題のバランスを考えて、自習の課題を精選する必要もある。以上を考えると、オンラインシステムを生かすのはコースの達成目標とシラバスに基づき、いつまでに何を習得させておくのか、そのために何をどのようにさせるのか、という問いに答える必要がある。

なお、今後は音声ファイルであるからには発音向上のためリピートやシャドウイングも課題にしたいと考えているが、1課から12課までの本文会話は速度が不自然に遅く、フォリナートークであるのが使用上の懸念であり、自然な日本語への改善が望まれる。また学習者に対する動機づけとやる気が持続する仕組みをコースに組み込む余裕がないので、この点を解決して実行に移したいと考えている。

参考文献

- 岡本 薫 (2002) 『教育関係者のためのインターネット時代の著作権 もうひとつの「人権」』財団法人 全日本社会教育連合会
The Japan Times (2000) 初級日本語『げんき』教師用指導書